

静岡文化芸術大学 文化芸術セミナー

浜松 楽器の事典

ピアノ編 第3章

2014年10月17日(金)

開場 17時50分 開講 18時20分

静岡文化芸術大学講堂

浜松 楽器の事典 ピアノ編 第3章

《第1部》 楽器トーク 《テーマ ピアノを作るⅡ》

コメンテーター 峯 郁郎 (デザイン学部 生産造形学科 教授)

進行 富田 晋司 (地域連携室)

《第2部》 名曲ライブラリー ピアノ/石井 園子

F・リスト (1811~1886)

愛の夢-3つのノクターン S.541 より第3番 変イ長調

パガニーニ大練習曲 S.141 より第3番 嬰ト短調「ラ・カンパネラ」

J・ブラームス (1833~1897)

6つの小品 Op.118より

16のワルツ集 Op.39より第15番 変イ長調

P.チャイコフスキー (1840~1893)

四季 Op.37b より10月「秋の歌」, 11月「トロイカ」

弦楽のためのセレナーデ ハ長調 作品48より 第2楽章 ワルツ

(ピアノ独奏版:角野裕 編)

《プロフィール》

石井 園子 (*ISHII Sonoko*) ピアノ

浜松市出身。5歳よりピアノを始める。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、同大学大学院修士課程修了。

学部卒業時に同声会賞受賞、併せて宮中桃華楽堂における御前演奏者に選ばれる。大学院修了時に修了演奏優秀者による安川記念ジョイントリサイタル Vol.24 (東京・浜離宮朝日ホール) に出演。平成21年度文化庁新進芸術家海外研修員として渡独。国際アントン・ルービンシュタイン音楽院 Meisterklasse 修了。小学3年生で第1回ウィーン音楽コンクールインジャパン小学校の部第1位、及びオーストリア文部大臣賞、シューベルトの演奏に贈られる中部日本放送賞受賞。他、国内の学生コンクールにて上位入賞。

第31回フィナーレ・リーグレ国際コンクール(伊)第1位、及びパルマ・ドーロ賞受賞。第78回日本音楽コンクール第3位。第1回パウル・バドゥラ＝スコダ国際ピアノコンクール(スペイン)第2位。第22回リナ・サラ・ガロ国際ピアノコンクール(伊・モンツァ)第3位。

これまでに藝大フィルハーモニア、浜松交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、“パウル・コンスタンティネスク” フィルハーモニックオーケストラ、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団等と共演。

近年浜松においては、2008年浜松市文化振興財団主催 第3回はましんファミリーコンサート、2011年浜松市制100周年記念 浜名梱包クラシックスペシャル“アクト・ニューアーティスト・シリーズ”、2012年浜松音楽友の会主催 四季のコンサート浜松出身の演奏家シリーズ等に出演。

これまでに梶山知子、疋田範子、宮本久美子、大野真嗣、角野裕、ディーナ・ヨッフエの各氏に師事。

日本・ドイツでのソロリサイタルをはじめ、デュオ、室内楽にて演奏活動を行う傍ら、後進の指導にもあたっている。

東京藝術大学音楽学部 及び 名古屋音楽大学 非常勤講師。

石井園子オフィシャルサイト <http://www.sonokoishii.com>

峯 郁郎 (*MINE Ikuro*) / コメンテーター

デザイン学部教授(生産造形学科)

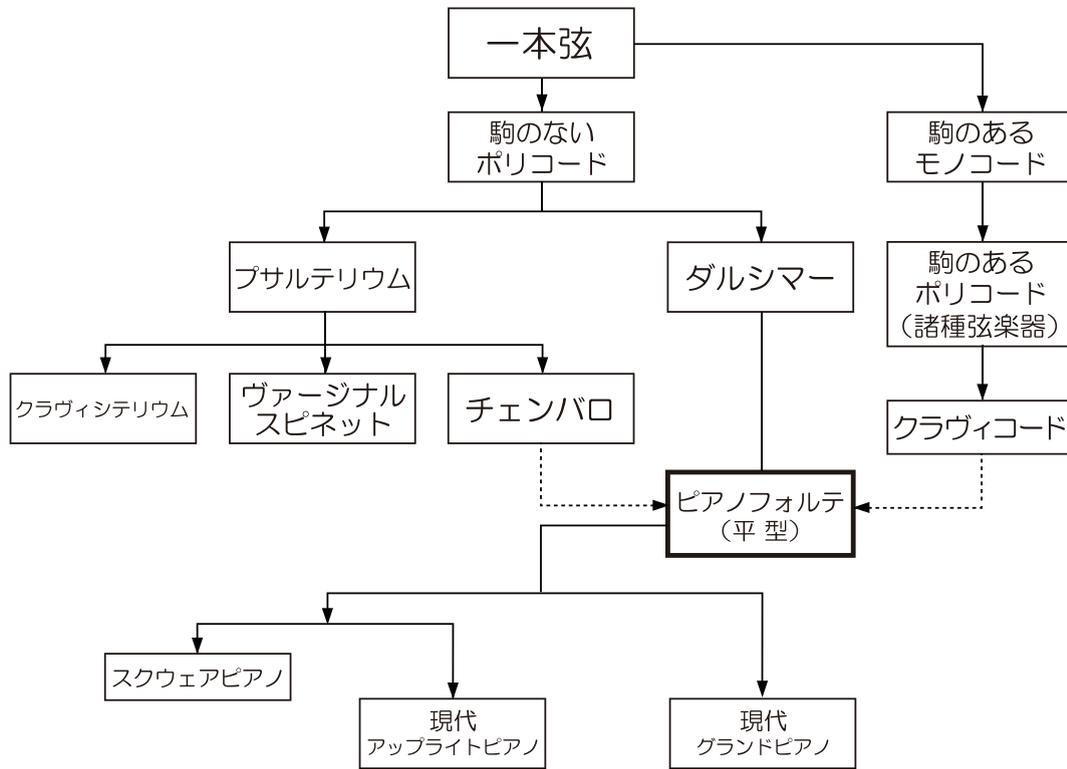
専門はプロダクトデザイン、デザインマーケティング

富田 晋司 (*TOMITA Shinji*) / エディター(編集者)

地域連携室所属 文化・芸術研究センターの事業等を担当

ピアノを作るⅡ

弦楽器から鍵盤打弦楽器へ



ピアノを作るⅠより

ピアノ(オルガン、楽器)作りの歴史的な重要人物

1846 西川 虎吉 1920
弘化3年 大正9年

1851 山葉 寅楠 1916
嘉永4年 大正5年

1865 松本 新吉 1941
慶應元年 昭和16年

1881 山葉 直吉 1938
明治14年 昭和13年

1886 河合 小市 1955
明治19年 昭和30年

1896 大橋 幡岩 1980
明治29年 昭和55年

グランドピアノができるまで

1 ピアノの材料	13 フレームの製作	25 第一整調
2 製材・選別	14 フレームの取り付け	26 第二整調
3 木材の天然乾燥	15 チューニングピンの打ち込み	27 ダンパーの取り付け
4 木材の人工乾燥	16 張弦	28 シーズニング
5 響板の製作	17 外装の取り付け	29 自動打弦機
6 響板のシーズニング	18 第一、第二調律	30 大屋根の取り付け
7 響板への響棒接着	19 鍵盤の製作	31 脚・ペダルの取り付け
8 曲練支柱の製作	20 ハンマーの製作	32 仕上げ調律
9 支柱の組立て	21 アクションの組み立て	33 仕上げ整調
10 側板と支柱の接着	22 アクションの調整	34 整音
11 塗装	23 鍵盤・アクションの取り付け	35 品質検査・完成
12 響板の貼り込み	24 自動打鍵機	

ヤマハ(株)掛川ピアノ工場紹介動画より

ピアノを作るⅠ・Ⅱまでのまとめ

遠い昔より、声～音～音楽への憧れや祭事的、呪術的側面からも音を奏でる道具が工夫、発明されて来た歴史があり、原始的な弦楽器もそのひとつとして改良、開発への努力が繰り返されたと考えられる。

18世紀初めに時代の要請もあって、これまでのチェンバロを改良したピアノフォルテが発明され、音質、音量、表現力などが飛躍的に向上したと思われる。歴史に残る有名な作曲家、音楽家の要求と楽器開発者との協業で今日の優れたピアノという楽器の姿、更に今後のピアノへの可能性が追及されている。

19世紀末、ここ浜松の土地で偶然さまざまな人たち、状況が出会い育まれて楽器産業が生まれることとなり、この土地の生活者たちの気質と相まって世界に誇れる楽器作りが営まれ、継続されている。当時同時多発的に楽器開発への情熱を持った技術者が国内に点在し、急速に進んだ日本の産業の中で文化的な一面を担っていたと考えられる。そんな中でいくつかの集約、統合が進み、結果的にここ浜松周辺が残ることになったと思われる。

世界的に見てもこれほどの楽器産業の集まりと人々の気質、自然環境の整った条件を備える例は稀で、産業としての楽器から文化としての音楽+人+楽器という心豊かな都市へと発展、成長することが望まれて今日に至っている。

(この点については12月開催予定の第5章で詳しく触れる予定)